

10年目のフクシマを考える

今年3月11日福島原発事故から10年目を迎えた。今フクシマでは、事故を起こした福島原発で日々発生しているトリチウム汚染水（ALPS処理水）の処理の問題が大きな課題の一つになっている。日本政府・東京電力は事故の責任を放棄し、多くの関係者や国民が求めている「陸上での安全な保管」について、真剣な検討を行わず、「海洋放出」を地元福島県民に迫っている。もし「海洋放出」されれば、福島のみならず全国の、そして世界の人々に、さらなる放射能汚染と被ばくを強いることになる。「福島と長崎をむすぶ会」と「長崎県被爆二世の会」では、3月11日18時30分から長崎県勤労福祉会館3階大会議室において、



福島、兵庫、長崎を結んでの講演会
会で語る崎山昇会長（左）

「10年目のフクシマを考える」集いを開催し、この問題を被爆地ナガサキと現地フクシマを結んで考えた。

まず、全国被爆二世団体連絡協議会の崎山昇会長が「トリチウム汚染水を海洋放出させないために」と題して報告を行った。全国被爆二世協では、昨年10月「海洋放出月内にも決定」と新聞が報じたのを受け、内閣総理大臣や関係閣僚へ「海洋放出・大気放出を行わないことを求める要請書」を送付した。報告の中で10項目にわたり海洋放出の問題点を指摘し、要請の内容を改めて説明、「海洋放出」を許さないために、フクシマと連帯し、被爆地ナガサキから反対の声を上げることが極めて重要であると訴えた。要請の内容は、①被爆二世は原爆放射線の遺伝的影響を否定できない核の被害者である。原爆による核の被害者として、これ以上ヒバクシャ、放射線による被ばく者を生み出すことを容認できない。福島のみならず全国の、そして世界の人々に、さらなる放射能汚染と被ばくを強いる「海洋放出」をすべきではない。反対である。（原爆被害の教訓は、核と人類は共存できないということであり、それは放射線の人体への影響である。苦しみがら亡くなっていった被爆者の調査から、どんなに低線量であっても線量に応じたリスクがあることが明らかになっている。）②政府及び東電は、国策で進めた原発で重大な事故を起こした上に、大量の汚染水を発生させた責任を果たすべきである。すなわち、「海洋放出」や「大気放出」は行わず、政府及び東電が責任をもって管理すべきである。（放出してしまえば、影響があっても明らかにはできない。自ら生み出した放射性物質は自ら目が届くところで管理すべき。）

続いて、脱原発福島県民会議の佐藤龍彦事務局長がオンラインで参加し、「フクシマからの訴え」と題して報告を行った。その中で27項目の課題を掲げ、県内最大の課題として、トリチウム汚染水海洋放出問題と帰還困難地域の除染方針（白地地区）問題について詳しく報告された。トリチウム汚染水海洋放出方針決定延期の背景には、漁業者からの反対もあり、慎重に対応せざるを得ないとの判断に立っているのではないかと。零細漁業者はようやく本格

操業が始まり、これからが復興の出発点に立つ段階である。「この時期に」と懸念する声がたくさんある。無条件に流されるのには反対の声がたくさんある。福島の漁師は怒りをあらわにしている。また残りの帰還困難地域の除染方針が決まってない。政府には、「もう帰らない」と言っている人が大半なので、除染は不要との方向性がある。避難している人は「帰れない」ということ、勝手に「帰らない」と決めつけないでくれという人が多い。帰る展望がない。3万人くらい苦悩している人がいる。国は残された帰還困難地域の除染を貫徹すべきである。除染しないのは納得できない。政府・東電は「復興は着実に進んでいる」「課題は極めて少ない」と宣伝するが、多くの課題が残っていることを知ってほしい。トリチウム汚染水の海洋放出反対の運動は佳境になる。判断の時期は緊迫している。多くの課題の原因が、放射能の問題、健康に与える影響が懸念されることであり、権利として、国に対して被爆者に準じた「健康手帳」を求めていくことが被爆者と共通して主張できることである。トリチウム汚染水海洋放出反対運動の延長線上に「健康手帳」を勝ち取ることを位置づけている。多くの人と連帯して取り組んでいく。核被害者をつくらせない運動が、福島の被災者の救済につながっていくと確信している。10年は一つの通過点と思っている。着実に前進していきたい。「核と人類は共存できない」ということを実感している。みんなで頑張っていきましょう。



福島からオンラインで参加した
佐藤龍彦さん

その後、オンラインで参加して頂いた全国被爆二世協の科学・医療アドバイザーの振津かつみさんから「広島、長崎、チェルノブイリ、フクシマをつないで、国や東電の責任を追及し、なかったことにさせないことが被害者の救済につながる。皆さんと一緒に運動を強めていければと思う。」とのコメントを頂いた。（文責：長崎県被爆二世の会 事務局長 崎山昇）